

○長崎県対馬市

しまづくり推進部 しまの力創生課 係長 前田剛

対馬市について

- 面積: 708km²≒シンガポール
→面積の9割が山地「山の島」
→対馬島、100以上の小島、6の有人島から成る
- 人口: 31,067人 (H30.10月末現在)
- 集落数: 125 (半数は200名未満の小集落)
- 主産業: 漁業、土木建築業、サービス業
- 韓国からの観光客数: 35万人 (H29年)
- 1島6町から1島1市 (H16年3月合併)
- 予算規模: 317億8,300万円 (H10年度一般会計)



【将来像】	【挑戦】	【最優先課題】	【具体的な施策】
「自立と循環の宝の島対馬」	若者でにぎわう希望の島	ひとりづくり	1) 子育て支援 2) 地域で育つ子どもを育てる教育の推進 3) 地域に定住する若者の受け入れ 4) 若者から希望を抱かせる
	地域経済が潤い続ける島	なりわいづくり	1) 自営型対馬島をつくる 2) 対馬産品に高付加価値をつける 3) 観光客の誘致による活性化 4) ワクワクも楽しい仕事の創出
	支え合いで自立した島	つながりづくり	1) 地域と関係の体制を整える 2) 島内村の協働型支援体制を構築 3) 支え合いのつながりを守る
	自然とくらしが共存した島	ふるさとづくり	1) 安全安心なインフラ整備 2) 歴史・文化を未来に繋ぐ 3) さらばいば地産品をつくる 4) 自然の偉業と持続可能な利用

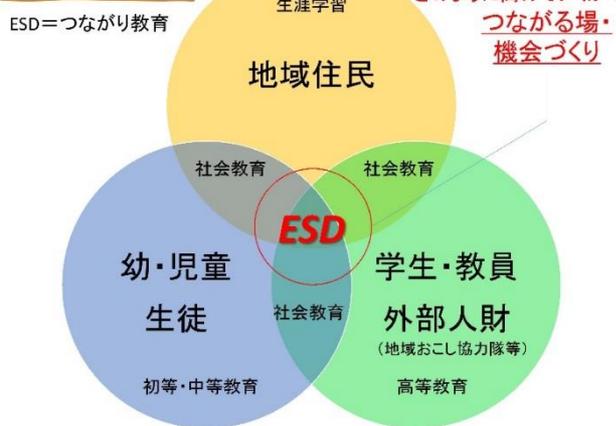
「なぜ人は出て行き、帰ってこないか」-地域創生の根本課題



人づくりの現状



ESDによる人づくり



対馬高等学校「ESD 対馬学」

グループワーク インタビュー

ユネスコスクール教育

主権者教育

ふるさと教育

主体的・対話的で深い学び

ESD 対馬学

キャリア教育

NIE教育

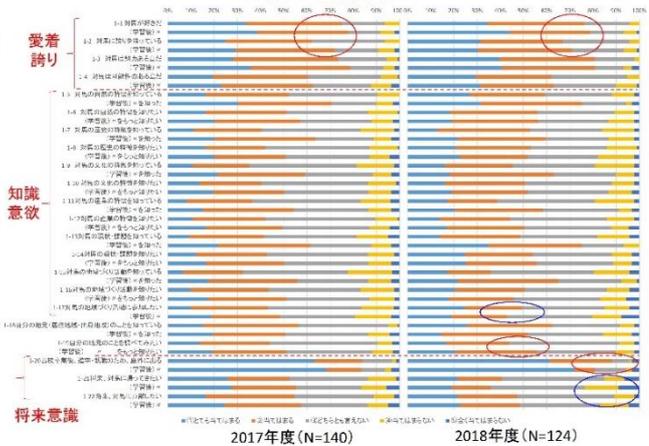
バス遠征 インタビュー

学習概要

区分	2017年度	2018年度
対象	2年次 普通科163名	1年次～2年次 普通科114名
授業数	12限	20限
内容	①外部講師によるリレー講義 ・対馬の魅力の感じ方、捉え方(前田) ・対馬の自然 (市文化交流・自然共生課 神宮周作主任) ・対馬の歴史文化(市 大澤信・高田あゆみ ミュージアム・プロモーター) ・インタビューのフロに学ぶ (長崎新聞対馬支局 緒方秀一 記者) ②グループワーク ・ 高齢の方々への人生史をインタビュー (対馬生が行く！「対馬に生きる」) ・事前の下調べ・質問づくり、事後のまとめ ・新聞記事の編集・作成、発表 (桐風祭・対馬学フォーラム等)	①外部講師によるリレー講義 ・どうなる対馬の未来？(前田) ・対馬の歴史・文化(市 大澤信・ミュージアム・プロモーター) ・対馬の医療・福祉について(市 桑原直行 医療統括官) ・対馬の産業・創業について(フラットアワー 桂本誠代表) ・対馬の現状について(県対馬振興局 中崎謙司 局長) ・取材講座(長崎新聞対馬支局 緒方秀一 記者) ②バス巡検 ・送検前講義(一社)対馬里山経営塾 川口幹子 代表) ・バス巡検(中対馬、下対馬地区) ③グループワーク ・課題の絞り込み ・事前の下調べ・質問づくり ・ 関係者へのインタビュー ・新聞記事の編集・作成、発表 (桐風祭・対馬学フォーラム)

生徒の意識変化

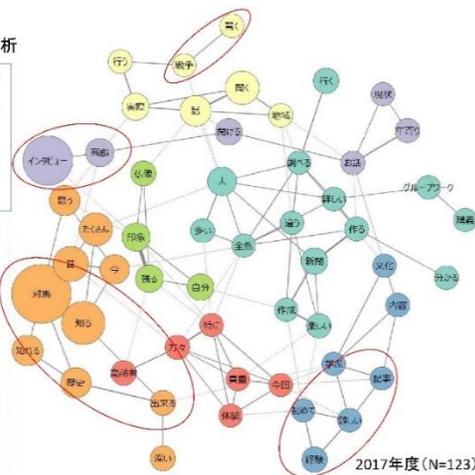
※島外からの離島留学生を除く



生徒の印象・感想 共起ネットワーク分析

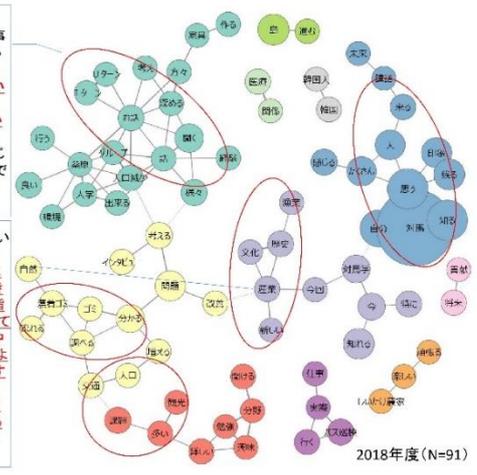
高齢の方々に対馬の歴史について聞く機会がないので、このような機会が対馬の歴史を知ることが出来てより一層対馬が好きになり、もっと深く対馬の歴史について知りたいと思った。

高齢者の方々から直接昔の対馬について話を聞くことができる貴重な体験となった。特に海女についてインタビューしたが、現在の対馬の海が昔よりも汚れてしまっている事に衝撃を受けた。僕たちの世代はこれからの対馬についても深く考えるべきだと思った。



対馬には自分が思った以上にいろいろなお仕事をされている人たちがいて、島内だけでなく島外からも対馬にいられたことがとても印象に残った。自分が思っている以上に対馬はすごい可能性のある島だと感じた。林業や漁業が盛んであり、たくさん人の歴史があることを学んだ。

インタビューに行ったいたけ農家の永尾さんがおっしゃっていた「地球にふるいにかけられたときに残るような産業を目指している」という言葉がとても印象に残った。世界中の人たちが永尾さんのような考え方へとほんのすこしずつ変わっていくだけで温暖化や資源の問題もすこしは改善されるのではないかと考えた。



考察

●魅力ある仕事づくりが必要

小中学校の郷土学習を経て、地元高校生の郷土愛(88.5%)やUターン意識(64.6%)は高めているが、対馬に魅力的な仕事があるという認識は低く(45.3%)、大学や専門学校卒業後のUターン意識は20%程度に留まる。**保護者の意識はUターン意識を強く規定し、若者にとっても保護者にとっても、また、対馬の人の持続性を高めるにも魅力的な仕事の創出が重要。**

(東京大学大学院教育学研究科 眞岩哲史氏との共同研究に基づく)

「持続可能な人づくり」

